



源流

No. 152

Contents

■理学療法アラカルト「理学療法管理学を学ぼう」小保方祐貴	・・・ 02
■理学療法士が知っておきたい社会保障制度 ワークライフバランス部 原耕介	・・・ 03
■地域包括ケアシステムって何ですか？ 小林真	・・・ 04
■書籍紹介「症例で学ぶ 脳卒中のリハ戦略」長谷川智	・・・ 05
■職場紹介「医療法人ふじあく医院 宝泉地域包括支援センター」肥田和也	・・・ 06
■後輩理学療法士へ 小野友也	・・・ 07
■令和4年度 介護予防推進リーダー導入研修会 開催	・・・ 08
■令和4年度地域ケア会議推進リーダー導入研修会開催	
■第48回基礎講座・症例検討会開催	
■地域ケア会議推進リーダー ステップアップ研修開催	・・・ 09
■令和4年度ワークライフバランス部 研修開催	
■令和4年度介護保険部主催研修会 開催	
■前期研修A講座 開催	・・・ 10
■会員動向 ■ニュース収受	
■編集後記	・・・ 11

理学療法管理学を学ぼう

医療法人五紘会 東前橋整形外科病院

小保方祐貴



東前橋整形外科病院の小保方祐貴と申します。私は 2009 年に理学療法士になり、今年で 14 年目になります。現職の東前橋整形外科病院は理学療法士になった当初よりお世話になっており、入職当初は私を入れて 7 名の理学療法士で運営しておりましたが、現在では理学療法士 27 名、作業療法士 4 名の計 31 名の組織となりました。私は 2016 年より部門の管理職を任せ、2020 年からは診療部長兼診療技術部長として管理業務中心の職務となりました。

重責と自身の能力の違いに悩まされた時期がありましたが、そんな時期に学習したのが「理学療法管理学」です。令和元年より理学療法養成カリキュラムにも入った学問ですが、なかなか学習する機会がないのが実情かと思います。理学療法管理学は管理者が勉強すべき学問と思われがちですが、臨床現場において患者・利用者等に対して一定水準以上の治療等の理学療法サービスが効果的に提供されるために必要なマネジメントの知識として必要不可欠なものです。

「何のために今やっている作業・記録・報告書が必要か？」

「診療報酬制度・介護報酬制度はどうなっているのか？」

「理学療法士ってそもそも何をする人か？」

みなさんはこれらに答えられるでしょうか？悩む方がいれば「理学療法管理学」を是非勉強してみてください。

さて、管理者の目線で理学療法管理学の必要性を話すと、昨今の医療経営課題は非常に複雑です。主体として「医療の質向上」、「収益性向上」、「組織体制強化」がありますが、言わば「効率性を上げ、コスト削減に努めながら、質の高い医療を提供しましょう」となります。「こんな都合の良いこと達成できるわけない！」と思われるかもしれませんが、Service profit chain (Heskett, 1994) を聞いたことがあるでしょうか？これは企業が従業員を大切にすることで、従業員のサービス品質が向上し、その結果顧客の満足度、そして企業収益につながるという考え方です。最近では、これに組織アイデンティフィケーションの連鎖を追加した Value profit chain (Heskett, 2003) が提唱されています。特に医療のような専門性の高いプロフェッショナルがサービスを提供する場合は、この Value profit chain が重要とされています。言わば、病院・施設の医療の質向上、収益向上を図りたければ、まず職員の満足度や組織アイデンティフィケーションを向上させましょうということです。こう考えるとやるべきことが整理されてくると思います。そしてこれも理学療法管理学の 1 つです。理学療法管理学は患者のために理学療法だけを実施してきた理学療法士が年齢を重ねれば理解できるものではありません。これからの時代に必要不可欠な学問として「理学療法管理学」を是非学んでみましょう。

理学療法士が知っておきたい社会保障制度

研修会「時間外労働について考えてみましょう」を終えて

ワークライフバランス部長 原 耕介

今年の10月15日に、ワークライフバランス部が主催するオンライン研修会が行われました。今年度は、「時間外労働の制度と労務管理上のポイント」というタイトルで、特定社会保険労務士の先生にご講演頂きました。働く上で時間外労働・残業は身近ではありますが、その制度について学ぶ機会が少ないため、大変勉強になる内容であり、今後もこのような企画を協会のみなさまにご提供できればと考えております。

講演後には、部員と参加者の方で意見交換会を行いました。今回の記事では、意見交換会で挙がった話題を振り返りまとめていきたいと思います。

まず話題として挙がったことが、カルテ内容の均一化についてです。スタッフによってカルテの記載方法・内容が異なることが、業務時間が不均衡になってしまう原因の1つではないかという意見が挙がりました。その対策として、カルテ記載のフレーム（SOAP など）を作成することで、業務範囲を明確にすることができ、延いては時間外労働を管理する一助になるのではないかというアイデアでした。

一方で、カルテの書き方も個性の1つであり、詳細に記録されたカルテに臨床を含む様々な場面で助けられることがあるという意見もありました。さらに、文書作成そのものにも得手・不得手があり、記載内容を均一化するだけでは時間外労働の削減には至らない可能性についても示唆がありました。時間外労働を削減するための施策・取組みについては、自施設の状況や運営方針に応じて施行していく必要があるのだと考えさせられた話題でした。

次に上がった話題は、時間外労働からは少し離れますが、育児・介護をしている職員としていない職員での業務時間・量のアンバランスについてです。育児・介護をしていると、どうしても急な休みなどが必要になることが増えてしまいます。そういったとき、「お互いさま」と思える雰囲気か、休みの前後で申し送りや声掛けなどの前後フォローができているか、働く人のバックグラウンドに配慮した組織作りについて、話し合いが行われました。

昨今では、「多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮できる機会を提供することで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげている経営」であるダイバーシティ経営も注目されています（*）。様々なバックグラウンドを持つ人が働く職場においては、普段からお互いにコミュニケーションを取り合い、一人ひとりがきちんと受け入れられる環境を作っていくことが大切なのだと感じました。

時間外労働についても、組織として定められたルールに則ったうえで、どうしても時間が掛かってしまう業務があるのであれば、職場の先輩や上司に相談してみてもいいかもしれません。管理監督する立場にある方についても、少し気になる職員がいれば声掛けをしてみてもいいかもしれません。時間外労働を適切に減らしていくためのヒントは、そういったコミュニケーションの中から生まれてくるのかもしれません。

*経済社会政策室.”ダイバーシティ経営の推進”.経済産業省. 2021-12-09.

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/diversity/index.html>, (参照 2022-10-23)

地域包括ケアシステムって何ですか？

藤岡地域の地域包括ケアシステムの取り組み

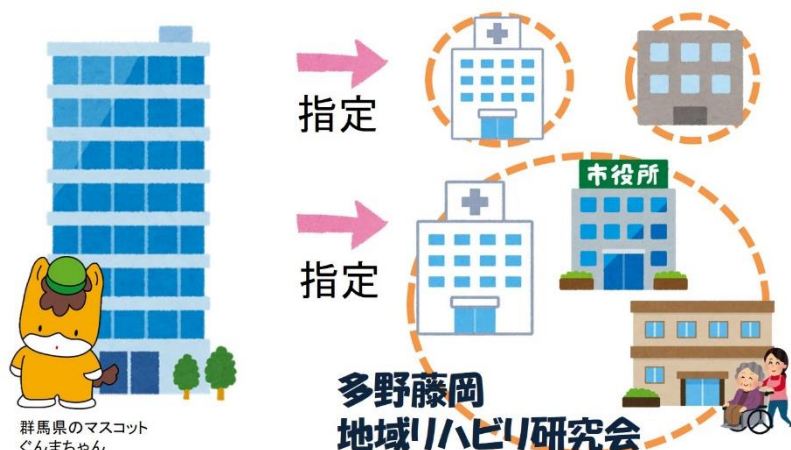
多野藤岡地域リハビリ研究会

公立藤岡総合病院 小林 真

多野藤岡地域リハビリ研究会は、平成 16 年から藤岡地域の広域支援センターとして活動を開始しています。一つの病院ではなく、地域の医療・行政・福祉の様々な職種からなる組織として、県から指定を受けているところが特徴です。

広域支援センター：

地域リハ支援体制整備推進事業の1つ
群馬県内13の病院や団体が指定されている



多野藤岡 地域リハビリ研究会 計63名

医療：10の病院・診療所
医師 歯科医師 看護師 薬剤師
理学療法士 作業療法士 言語聴覚士
ケアマネジャー 介護士 等

行政：8の部署
市役所 町役場 村役場
保健福祉事務所

福祉：14の関係施設
在宅介護支援センター
老人保健施設

主な活動内容として、地域住民を対象とした「いきいき介護予防講演会」や「介護予防サポーター養成事業」、地域の医療従事者を対象とした「病診間の症例検討会・アセスメント研修会」、地域の福祉施設を対象とした「実地指導」などを実施してきました。コロナ禍の現在では、健康体操や認知症予防などの動画を DVD にして配布する事業をおこない、地域の方々の自助・互助につながることを期待しています。

また市からの依頼で「健康福祉祭」「地域ケア会議」「フレイル予防講習会」「介護予防支援事業」などにも参画しています。そういった、市の事業等を請け負う際、当広域支援センターの形態から、顔の見える連携がとれていると感じます。

今後も地域包括ケアシステム推進のため、より一層地域の施設間、職種間の連携が必要と感じています。当研究会が、その一助となれるよう努力していきます。

*****書籍紹介*****



「症例で学ぶ 脳卒中のリハ戦略」

公立七日市病院 長谷川智

著者名：吉尾雅春 編集
出版社：医学書院
価格：4,000 円＋税



公立七日市病院の長谷川智です。理学療法士 13 年目になり、現在は回復期リハビリテーション病棟に従事しています。私が紹介する書籍は吉尾雅春先生が編集された「症例で学ぶ 脳卒中のリハ戦略」です。脳卒中の患者さんの治療において参考にさせて頂いています。この本は数年前に吉尾先生が学会長をされていた学会に参加した時に会いました。吉尾先生のご講演に感銘を受け、販売戦略通り学会会場の書籍販売コーナーに山積みされていたこの本を他の大勢の参加者に混ざってまんまと購入したのを覚えています。

この本では前半に「脳のシステムを学ぶ」項目があり、脳の各部位の機能や血管支配、ネットワークについて学ぶことができます。不勉強の私には脳の各部位の細かい機能や種々のネットワークに関する知識は目から鱗で、臨床において脳画像の所見をより詳細にみるきっかけになりました。後半はタイトルにもあるように症例紹介になっています。各症例とも脳画像の提示に始まり、「経過」、「画像の解釈と問題点の整理」、「臨床像と画像の読み合わせ」、「実際のリハビリテーションとその結果」という構成で展開していきます。「画像の解釈と問題点の整理」の項では画像所見から予想される症状が列挙されています。また、「臨床像と画像の読み合わせ」では画像所見から実際の症状を解釈しており、そこから症状の予後や治療戦略の立て方などが整理されています。そのため、臨床で似たような脳画像や症状を呈した患者さんがいた時に病巣の理解や症状の解釈、予後予測や治療戦略を考える際に参考にしやすくなっています。

診療報酬の改正により回復期病棟では患者さんの治療を行う上でより早期に予後を予測し、より短期間で効果を上げることが求められています。その中で脳卒中の患者さんの治療においては脳の機能やネットワークについて熟知し、脳画像からより多くの情報を得るスキルは理学療法士として必要不可欠と日々痛感しております。そんなニーズに寄り添ってくれるこの本を販売戦略通りに購入した当時の自分の素直さを今後も大切にしたいと感じています。

ご興味のある方は是非お手にとって頂けたらと思います。



職場紹介

医療法人ふじあく医院 宝泉地域包括支援センター 肥田 和也



○職場について

当センターは、平成27年4月より太田市からの委託を受けて運営しています。運営法人では、介護老人保健施設なども運営しており、当センターの事務所も介護老人保健施設内にあります。

太田市の地域包括支援センターは市内9箇所に設置され、当センターは市内中央～南西部の位置にある宝泉地区を担当しています。宝泉地区の高齢化率は、26.7%となっています。現在、当センターの職員は4名で、保健師（または地域ケアに経験のある看護師）1名、主任介護支援専門員2名、社会福祉士1名です。このうち、私は理学療法士の資格も持つ社会福祉士として令和元年6月から配属されています。

○業務内容について

地域包括支援センターの利用対象者は、65歳以上の高齢者あるいは家族や介護者などで、高齢者に関する相談を幅広く受けています。業務内容としては、総合相談、介護予防ケアマネジメント、包括的・継続的ケアマネジメント支援、権利擁護の従来の業務に加え、介護予防教室、地域ケア会議、在宅医療・介護連携への取り組み、認知症支援体制整備などがあります。私もすべての業務に携わっており、業務内容は多岐にわたりますが、職場内での他職種との情報共有や様々な外部機関・住民組織など、連携を図りながら業務に励んでいます。介護予防教室においては、企画の立案や講師の調整など運営の主担当として携わっており、コロナ禍で開催できない期間が長く続いた時には、フレイル予防をテーマにした介護予防教室だよりを定期的につけて配布するなど理学療法士としての利点も活かしています。

○これからの展望について

他機関などとの連携・アウトリーチ・地域ケア会議を積極的に行っていき、地域課題やニーズの把握により一層つとめていきたいと思います。理学療法士の観点で言えば、活動・参加する場（通いの場、就労、ボランティアなど）や自主グループ運営の支援や情報提供、フレイル予防の啓発にも力を入れていきたいと思います。また、地域の事業所で介護予防や地域づくりに取り組んでいるリハ専門職も多くいるので、個々の事業所同士のネットワークも強化して、横のつながりを大切にして連携を図って取り組んでいければと思います。

今後も、社会福祉士と理学療法士の二刀流で、地域包括ケアシステムの構築、高齢者が活躍できるイキイキした地域づくりに貢献していきたいと思います。

後輩理学療法士へ

医療法人相生会 わかば病院

小野友也



はじめまして。私は前橋市にあるわかば病院に勤務している小野友也と言います。現在、理学療法士として働き始め 8 年目になりました。まだまだ未熟な私が後輩の皆さんにメッセージなどおこがましくもありますが、このような機会をいただきましたので、私が悩んだ時、いつも頭をよぎるのは二人の恩師の言葉を紹介させていただきます。

一つ目は大学在学中に浅香満先生からご指導いただいた「選ばれる理学療法士になれ」という言葉です。学生時代の私はその意味を十分理解できていませんでした(今でも十分理解できていたとは言えませんが…)。働き出して多くの患者様、利用者様、地域の方と関わる中で、選んでもらうために大切な事はその人のことを思って、全力で関わろうとする「姿勢」だと感じるようになりました。

リハビリの効果をしっかりと出せているのかはどうなのか？と問われたら、口籠ってしまいますが、自分の事を一生懸命に考え、関わってくれているというのは言葉にしなくても相手に伝わるものです。理学療法士の数も増え、資格を持っていればという時代ではなくなっている昨今、常にその姿勢でいることが、選ばれるためには重要なだと自分勝手に解釈しています。

二つ目は臨床実習で指導してくださった先生から言われた「どこでではなく、何をするかが大切」という言葉です。現在、理学療法士の職域は、医療や介護だけでなく、挑戦し続ける先生方のおかげでノウハウを活かしての起業やペットのリハビリなど非常に広がりを見せています。私自身、8 年と短い経験年数ですが、病院・訪問・通所などやや異なる領域で働く中で、働き方や診療形態の違いにより、戸惑いやもどかしさを感じる場面はあります。そんな時には環境・状況が違って自分も自分。今、自分にできることを精一杯頑張ろうとこの言葉を思い出しています。

まだまだ駆け出しの私も、日々これでよかったのだろうか？の繰り返しです。自分ひとりでは解決できない問題は必ず現れます。そんなときには家族、知り合い、上司、先輩、同僚など周囲で支えてくれる人に相談し、力を借りてください。そして自分にしかできないことを活かして、全力で取り組んでみてください。

今後、2025 年、2040 年と問題を抱えた社会から、様々な職域で理学療法士が選ばれる資格であり続けられるよう、共に研鑽を積み、頑張っていけたらと思います。



介護予防推進リーダー導入研修会 開催

令和4年8月7日(日)曜日にWEB開催にて介護予防推進リーダー研修会が開催されました。「介護予防とPTの役割」に付いて前橋市長寿包括ケア課北原絹代先生、「介護予防の実践について」榛名荘病院原田亮先生「介護予防事業の企画、立案、関連する組織との関わり方」についてのグループワークでは群馬大学山上徹也先生からご講義を受けました。

身近では2025年問題など取り上げられている中で、いかに介護予防を行い地域の方達の通いの場への促しが必要か、地域住民の方、地域包括支援センターとの連携が必要かという事を学ばせて頂きました。また、グループワークを通して、地域柄や利用者様が置かれている環境など様々な原因を評価し、どの様に介護予防に繋げていくと良いかなど今後の臨床を行う上で重要な課題を見つけることができ、とても有意義な時間となりました。

介護老人保健施設うらく 森田昂輝

地域ケア会議推進リーダー導入研修会 開催

令和4年9月25日(日)オンライン形式にて地域ケア会議推進リーダー導入研修が開催されました。

山路会長よりご挨拶をいただき、実際に地域ケア会議で活躍していらっしゃる先生方から、地域包括ケアシステムや地域ケア会議について、主催者・参加者など様々な視点でご講義いただきました。

その後、模擬ケア会議を開催し、実際の会議の雰囲気に参加者の方に感じて頂きました。

是非今後も実際の地域ケア会議の聴講や当部主催のステップアップ研修等にご参加いただき、より知識を深めていって頂ければと思います。

今回のオンライン開催にあたり、講師を務めてくださいました塩浦宏祐先生、北原絹代先生、篠原智行先生、入内島弘太先生にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

地域包括ケアシステム部 小野友也

第48回基礎講座・症例検討会 開催

令和4年10月2日に、オンライン形式にて第48回基礎研修・症例検討会が「ケアマネジメント等他職種との連携」をテーマに開催されました。前半の講義では山形県立保健医療大学 保健医療学部理学療法学科准教授の丹野克子先生にご講演いただきました。先生は、PTの資格以外に、社会福祉士やケアマネなどの資格をお持ちであり、さまざまな視点や経験から、他職種とのよい連携ができるために教えていただきました。他職種と連携するためには、わかりやすく説明することや、考えていることの経過を説明するなど、発信する力が大切になると教えていただきました。

後半の症例検討会では、沼田クリニック 荒木綾平先生、前橋協立病院 静野あかり先生、介護老人保健施

設うららく 柳澤達也先生、西吾妻福祉病院 山崎絢子先生の4名の先生に発表していただきました。それぞれの先生方から、連携するために取り組んだ点や難渋した点などを発表していただき、発表後の丹野先生からのアドバイスをいただきました。日々の業務でさまざまな他職種の方々と関わるとは思います、関わり方や伝え方を見直す貴重な時間となりました。

地域ケア会議推進リーダー ステップアップ研修開催

令和4年10月5日と7日にオンライン形式にて、地域ケア会議推進リーダー ステップアップ研修が「地域共生社会における高齢者の就労支援について」をテーマに、日本理学療法士協会 常務理事の佐々木嘉光先生よりご講義をしていただきました。講義では、理学療法士を取り巻く社会の状況、また政府や社会から求められていることなどを教えていただきました。日本は今後も高齢化率は増加し、多くの高齢者は生涯現役を望んでおり、高齢労働者に向けて、労働災害を予防することが大事と説明いただきました。また、政府の方針でも予防・重度化予防・健康づくりが推進されているとおっしゃっていました。実際の活動として、腰痛予防普及事業をご紹介いただきました。日本理学療法士協会の事業で職場における腰痛予防の取り組みや、一般企業との取り組みで体力測定や就労前の体操などを説明していただきました。

今回の、研修を受け今後理学療法士が求められることを知ることができ、貴重な時間になりました。また、私の職場でも腰痛がある方は多く、より良い環境や体の状態で働くことは大切であり、腰痛予防対策の重要性理解することができました。

ワークライフバランス部 研修開催

令和4年10月15日にオンライン形式にて、「時間外労働について考えてみましょう」をテーマにワークライフバランス部研修が開催されました。前半は、中嶋労務管理事務所 社会保険労務士の中嶋栄先生よりご講演いただきました。ご講演では「時間外労働の制度と労務管理上のポイント」をテーマに、労働基準法の労働時間や時間外労働などについて、また、介護や育児関係の休業制度についても説明いただきました。最近、男性の育休についても聞くことが多くなり、休業制度の申請や取得するためにも、法律や制度を知ることの大切さを学ぶことができました。

後半の、意見交換会では、参加者の勤務先お時間外労働の現状についてや各病院や施設の取り組みなどについて活発な意見交換が行われました。意見交換会に参加し、さまざまな各病院・施設の現状や取り組みを知ることができ、また、共感できることも多く貴重な機会になりました。

令和4年度介護保険部主催研修会開催

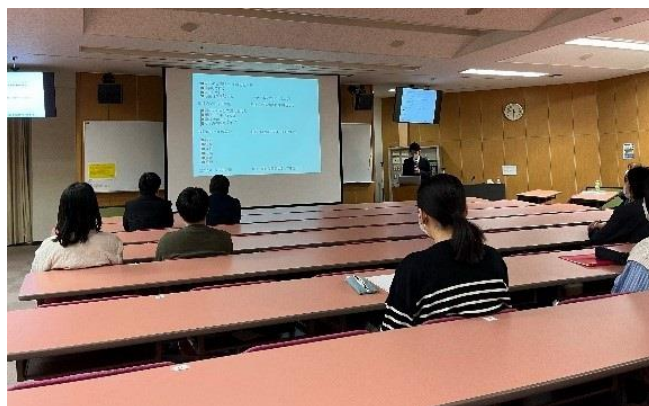
令和4年10月17日にオンライン形式にて令和4年度介護保険部主催研修会が開催されました。研修会では、3名の先生よりご講演いただきました。角田病院 高草木信太郎先生より「保険外リハビリ施設での理学療法士の働き方」について、保険外リハビリ施設の必要性や施設の紹介、SNSやYouTubeの取り組みや周知してもらうための営業活動の大変さなどを教えていただきました。公立七日市病院 石橋邦先生より「広域支援センターの活動とオンライン通いの場 実証事業について」、地域高齢者がスマートフォンを使用してビデオ通話や行政等の情報収集できるよう、スマートフォンの委託業者との企画の進め方や高齢者やスマートフォンを使用する難しさなどを教えていただきました。株式会社孫の手 荻原光代先生より「健康増進を目

的とした 60 歳からのフィットネス事業」について、地域に密着した保険領域外の自費事業や経営の難しさ、自費で参加していただくためにセラピストとしての技量や人間性が重要と教えていただきました。

今回の研修に参加し、保険外で活躍されている先生方の、仕事内容ややりがい、難しさなどを知ることができ非常に貴重な時間となりました。また、研修の中で、保険内で働いていた時はいろいろな意味で環境に守られているとお話があり、とても印象に残りました。

前期研修 A 講座 開催

令和 4 年 10 月 30 日に群馬大学ミレニアムホールにて、前期研修 A 講座が開催されました。今年度より新しい生涯学習制度となり、講師は群馬県理学療法士協会の生涯学習部員の先生方にご講義していただきました。内容は、「生涯学習について」「職業人と倫理」「人間関係及び接遇」「理学療法における情報管理」についてご講演いただきました。どの講義も理学療法士として働く上で大事な分野であり、参加した方は真剣に聞いていました。



会員動向

令和 4 年 11 月 22 日現在

会員数 2,157 名、休会数 250 名、新入会数 122、施設数 337 施設

ニュース収受

2022/8/31	群馬県医師会報 No.889 2022Aug.	群馬県医師会
2022/9/5	大阪府理学療法士会ニュース No.293	大阪府理学療法士会
2022/9/13	らいちょう No.141 No.142	岐阜県理学療法士会
2022/9/14	北海道理学療法 Vol.39	北海道理学療法士会
2022/9/15	会報 群臨技 475 号	群馬県臨床検査技師会
2022/9/15	滋賀県理学療法士会ニュース No.221	滋賀県理学療法士会
2022/9/16	群馬県スポーツ協会 年報 第 42 号(令和3年度実績)	群馬県スポーツ協会
2022/9/26	東京都理学療法士連盟設立 10 周年記念誌	東京都理学療法士連盟
2022/9/26	静岡県理学療法士会 NEWS ゆまにて No.194 号	静岡県理学療法士会
2022/9/26	静岡理学療法士ジャーナル第 44 号	静岡県理学療法士会
2022/9/27	兵庫県理学療法士会 士会だより No.196	兵庫県理学療法士会
2022/9/27	群臨技会誌 Vol.61 No.1	群馬県臨床検査技師会誌
2022/9/30	広報誌「ゆきわり草」No.200	新潟県理学療法士会
2022/9/30	群馬県医師会報 No.890 2022 Sep.	群馬県医師会

2022/10/5	ケアマネ群馬 会報 No.127	群馬県介護支援専門員協会
2022/10/5	山梨理学療法士会 会報誌 No.160	山梨県理学療法士会
2022/10/12	茨城県理学療法士会 令和 4 年度 No.2 (No.177)	茨城県理学療法士会
2022/10/18	秋田県理学療法士会ニュース 第 206 号	秋田県理学療法士会
2022/10/18	神奈川県理学療法士会ニュース No.293	神奈川県理学療法士会
2022/10/20	広島県理学療法士会ニュース No.271	広島県理学療法士会
2022/10/27	第 24 回群馬県作業療法学会 学会誌	群馬県作業療法士会
2022/10/28	JPTA NEWS 2022.10 Vol339 NO LIMIT Vol.91	日本理学療法士協会
2022/10/28	群馬県医師会報 No.891	群馬県医師会
2022/10/31	愛知県理学療法士会ニュース 2022.11	愛知県理学療法士会
2022/10/31	かくどけい Vol.140 2022 OCTOBER	熊本県理学療法士協会
2022/11/4	大阪府理学療法士会ニュース第 294 号	大阪府理学療法士会

*** 編集後記 ***

皆様のご協力があり源流 152 号を発行することができました。原稿執筆や研修会にて、ご協力いただいた先生方、誠にありがとうございました。

今年もあと少しとなり、寒さも厳しくなっていきます。まだまだコロナなどの感染症予防をしながらの生活ですが、皆様も体調に気を付けてお過ごしください。

蜂巢 健人